



フィルムが繋いだ絆

わずか約20分に込められた参加者の思い、情熱。映画が好きだから、三芳が好きだから、力を合わせ完成することができました。



この映画が完成するまでに、紆余曲折がありました。脚本、撮影日の調整、天候……。私たちが普段目にする映画やドラマ。とても華やかなものですが、その裏では多くの人々が携わっています。水面に優雅に浮かぶ白鳥は、水の中では足をバタバタさせているように、映画も、裏側では多くの過程を経て完成することができるのです。

脚本が完成してから撮影が終わるまでわずか1か月。参加者はプロの指導を受けながらも、不安を抱えながら撮影を行いました。3月1日の撮影では、強風が猛威をふるい、三芳町ではよく発生する砂嵐が舞い、風の音をマイクが拾い、撮影が中断してしまふなどのハプニングがありました。

撮影の間、何度もNGが出たり、準備に時間がかかる場合など、出演者たちは長い時間を待つことになることもありました。しかし、何度も重ねたワークショップなどで絆を深め、参加者全員が家族のような関係となり、楽しい雰囲気での撮影をす

ることができました。撮影、音声などの人は本編に出ることはありません。また、ほんの少しの出演となった人、美術として小物を手作りして準備した人、出演者のメイクを担当した人など、誰か一人欠けても、この映画の完成はありませんでした。全員が力を合わせ「三芳物語」という映画を完成させるという目標に向かうことで、参加者の心がひとつになりました。

参加者の皆さんが口をそろえて言っていた言葉があります。

——三芳町が好きなんです。

このプロジェクトに参加した理由であったり、苦しくても頑張ることができた理由であったり、質問をすると必ずこの答えが返ってきました。大好きな町だからPRしたい、何か町のために役立ちたい、そんな思いがたくさん詰まった「三芳物語」。上映会の入場は無料です。三芳町がまるごと入ったこの映画を、ぜひコピスみよしの大きなスクリーンでご覧ください。



三芳物語

子どもたちの忘れ物、ありませんか？

- 十数年ぶりに故郷・三芳町に帰ってきた竜太郎。
- タクシーに乗り、子どもの頃に遊んだ場所を訪ねる。
- 旧島田家で偶然、幼なじみのサキと出会う。
- サキは学童保育の指導員、
- 竜太郎は海外で活躍するデザイナー。
- 自分たちの小学校時代を思い出す二人……。
- 竜太郎が転校してきた話
- サキがロッカーに隠れた話
- 緑地公園で校長先生のものまねをした話
- 二人で川越街道を越えた話
- そして、竜太郎に対する当時の想いを語るサキ……。
- 子どもたちの、二人が置き忘れた思いとは。
- 三芳町で繰り広げられる、甘く切ない物語。
- 三芳町が好きだから完成した「三芳物語」。
- 二人の恋の結末をぜひコピスみよしでご覧ください。



住民が自分たちの力で創りあげた「三芳物語」上映会開催

住民の手によって作られた三芳物語。上映会ではスタッフによる舞台挨拶があります。住民が力を合わせて創りあげたこの映画をぜひご覧ください。
【出演】森 啓太 (竜太郎) 朝雛香世 (サキ) 中山才誠 (小学生の竜太郎) 榎本愛梨 (小学生のサキ) 菅谷真歩 (高校生のサキ) 青野景子 生田 實 金井塚美樹 小島佐知子 菅谷裕子 鈴木秀太 徳田歩華 徳田まなか 中山恵稀 松島兼聖 三澤歩未 三澤乙葉 南以恵子 山田あつ子 渡辺春花 渡辺ひとみ 【監督・脚本】吉村 豪 山野由紀【撮影】穴澤竜司【録音】福田 誠【その他】丸野寿子 矢島 茜 矢島慎也

無料 **6月2日** 13:30 開場 14:00 開演

会場/コピスみよしホール 料金/無料 (全席自由) コピスみよし ☎049-259-3211

入場整理券配布場所/コピスみよし ☎049-259-3211
※入場整理券の引き渡しは上映会当日でも可能です。事前に電話で予約をしてください。

住民の力だけで、本当に映画をつくることのできるのか

ワークショップの初日、参加者の誰もが期待と同時に不安そうな顔をしていたのをよく覚えています。ぼくは「どんなに困難な撮影も、必ず終るものです」と自信たっぷりに言いましたが、確信があったわけではありません。しかし、映画は見事に完成しました。ハリウッド映画だけが映画ではありません。「三芳物語」も立派な映画です。いや、三芳町だからこそつくることができた映画だと思います。このような試みがこれからも続いていくことを期待しています。

「三芳物語」監修

阿部 勉 (松竹撮影所)

山田洋次監督作品のチーフ助監督を務め、「しあわせ家族計画」で監督デビュー。本作は第33回ヒューストン国際映画祭ファミリー・チルドレン部門金賞を受賞。他に「京都太秦物語」(山田洋次・阿部勉監督)など。

